

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 10 月 1 日

事業所名 コペルプラス戸田公園教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で 適切である	7	1	・少し狭く感じる時 もあるが、プレイル ーム等で十分な運 動が出来るように 努めている。	集団クラスが最大 6 人のお 子様と指導員がメインと数名 の補助が入り、場合によって は保護者の方に補助をお願い することもある。お子様だけ だと十分な広さだが、大人も 含めると手狭さを感じる。
	②	職員の配置数は適切である	7	1	・配置人数がもっと 多いと円滑に業務 が進められると思 う。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された 環境になっている。また、障害の特性に応じ、事 業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等 への配慮が適切になされている	7	1	・構 造 上 厳 しい が、エレベーターが あると良い。 ・教室内には大き な段差もなくドアや 壁にはクッションが 張られている。 ・お子様の特性に 応じてキッズテーブ ルの設置や環境の レイアウトを行って いる。	教室が 2 階にあるため螺旋 階段しか移動手段がないた め少し不便さを感じる。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境に なっている。また、子ども達の活動に合わせた空 間となっている	7	1	・朝と夜の掃除だ けでなく、レッスン 終了ごとに教材 等、消毒を行って いる。 ・朝や空き時間 等、業務後に清 掃を行っている。	トランポリン、鉄棒などの大型 遊具、机や椅子等、部屋が 狭いため置き場所を工夫して いる。

業 務 改 善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8	0	・お子様の 1 人 1 人の支援会議が行われている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	・今年度はまだ実施されていない。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	・毎年いただいたご意見やご要望に対して話し合いを設け改善に努めている。 ・当事業所のオーナーである株式会社 M I S H I M A の代表にも毎年報告を上げている。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	0		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	コペルプラス本部の研修や県で行われている研修、当事業所のオーナーである株式会社 M I S H I M A の研修に参加をしている。	
適 切 な 支 援 の 提 供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0	・アセスメント後、指導員がお子様と接した際の所見と、児童発達支援管理責任者が保護者と面談した際の所見を持ち寄って細かく分析しながら作成することを心掛けている。	

	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	・株式会社コペルの本部が作成したアセスメント教材をもとに、対象のお子様が必要と思われる教材を追加して、より内容の濃いアセスメントを実施するようにしている。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	0	・支援計画は主に本人の発達支援を記載しているが、本人の発達支援が促されることが家族支援や地域移行支援につながると考えている。	

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	0	・支援の基本となる部分なのでスタッフ全員が確認をして行っている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	・個別のプログラムは担当するスタッフが考えているが、支援計画に基づいているので支援の方向性が異なることはない。また、前回の支援の様子を引継ぎをし、お子様の様子を共有しながら行っている。 ・集団レッスンのプログラムは、前回から引継ぎをされて	

					いるので、連動した内容となっている。 ・月末の集団イベントはチームごとに話し合いながらプログラムの立案を行っている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	・前回のレッスン担当者から様子を聞き取り、支援後はレッスン内容をメモに残すなどして、内容が重複しマンネリ化しないよう努めている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	8	0	・集団レッスンにも参加されているお子様の場合には、支援計画にのせており、個々の状態に合わせてながら作成をしている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	・週7日営業なので全スタッフが顔を合わせるの難しいので、支援内容及びお子様の様子について毎回記録に残して、次回担当者に情報共有ができるようになっている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	・お子様の様子や保護者からの要望などは、些細なことでも児童発達支援管理者に情報共有するように徹	

					底しており、その後職員全体で共有している ・引継ぎの際にも情報共有を行っている。	
	⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	・サービス提供ごとに、「サービス提供記録」を书面で、お子様の様子や結果、保護者からの意見を残している。	
	㉔	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	・お子様の支援計画の変更 1 ～ 2 か月前から各指導員にモニタリングシートを配布し、会議に向けて細かな情報を集めるようにしている。 ・モニタリングシートを用いてお子様のレッスンの様子を確認し、会議にて支援計画の見直しについて話し合っている。	会議当日に出勤していない職員もいるが、モニタリングシートの提出をしている。
関係機関や保護者との連	㉕	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3		・依頼があった際は児童発達支援管理責任者と共に普段から密に関わっている指導員が参加をしている。	
	㉖	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	0	・主にお子様が行われている保育園、幼稚園との連携を行っている。	

携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携				・相談支援事業所の相談支援員とは電話連絡を行いながらお子様の支援経過について情報共有している。		
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		8	・当時業者は該当しない。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		8	・当事業所は該当しない。 ・契約時にかかりつけの病院や主治医を記入していただいている。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	・保護者からご希望があった場合、児童発達支援管理責任者と指導員が幼稚園や保育園に訪問等し、生活の様子を見学している。その際に、担任の保育士と日常生活の様子について聞き取りと当事業所での支援内容の情報共有を行っている。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	・毎年年長児のお子様に対して、ご要望があった際に小学校への移行支援シートに支援経過について作成しお渡ししている。	

	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	0	・株式会社 M I S H I M A 内の発達支援事業所と連携して支援方法についてのアドバイスをもらっている。	
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	5	当事業所は、体験レッスンのお子様以外は外部の方をお招きする機会には設けていない。	

	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	8	今年度の参加はできていない。	
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	・フィードバックの際に保護者からレッスン内容以外にも、ご家庭での様子、保育園幼稚園での様子を伺い、お話をしてくださった際には情報共有を行っている。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	4	3	・昨年度から不定期に実施をしている。	
保護者への説明責	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	・契約時に児童発達支援管理責任者か管理者が説明をしている。 ・運営規定は教室内に掲示している。	

任 等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0	・児童発達支援管理責任者が作成した支援計画を保護者に確認していただき、署名とご捺印を頂いている。	
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	・毎回レッスン後のフィードバックを行っているため、保護者から相談があった際はフォローを行っている。よりじっくりとお話を伺う際には児童発達支援管理責任者や管理者につなげて、情報共有をし別日にはなるが返答出来るようにしている。また、ご希望があった場合には個別に面談を行っている。	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	8		・当事業所では保護者会は実施していない。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	・保護者から相談の申入れがあった際には、ご希望日程などを設定し迅速に対応をするようにしている。 ・契約時に苦情受付担当者・責任者の担当者を伝え、体制状況について説明している。	

	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	・イベント情報などは、毎月のチラシやLINEで発信している。 ・株式会社MISSIMA独自のイベントの情報発信があった際は保護者の方に情報発信をしている。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	8	0	・全スタッフが入社時に「秘密保持誓約書」に同意をして入社している。 ・お子様に関する情報は鍵付きの書庫に保管すること徹底している。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	・視覚的な書面でお渡しをしたり、わかりやすい説明を日ごろから心掛けている。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	8	・実施はしていない。	・利用者の方以外の外部の方を招待するイベントは基本的に行っていない。相談支援事業所の相談支援員の訪問や初めて体験にいらっしゃる方の受け入れなどはスムーズに対応することを心掛けている。
非常時等の	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	0	・マニュアルは教室に常に掲示され緊急時に対応できるようにしている	・毎月ではないが、月末のコミュニティ時に保護者とお子様にご協力いただいてスタッフ全員で火災、地震などの避難訓練を実施している。

対 応					・毎月ではないが避難訓練を実施している。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	8	0	・なるべく定期的に避難訓練を実施するようにしている。行う際にはLINEにて保護者に通達し告知を行っている。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこ どもの状況を確認している	8	0	・服薬、発作等の情報についてはアセスメントシート時に保護者様に記載していただいている。 ・都度変更があった場合には、情報を記録に残して情報共有できるようにしている。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指 示書に基づく対応がされている	8	0	・アセスメント時に食物アレルギー有無について必ず確認をしている。 ・イベント等でお菓子を配布する際には保護者に確認の依頼を行う等の対応をしている。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有し ている	8	0	・当事業所のヒヤリハット以外にも、他教室での事例も共有をしている。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保す る等、適切な対応をしている	8	0	・虐待防止委員会を設置し、必要	

					な研修を受けている。	
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	0	・契約時に児童発達支援管理責任者が説明をして保護者から同意を得て書類として保管している。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。